

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年8月1日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4690100526
法人名	有限会社 友星メディカル
事業所名	グループホームうすき
所在地	鹿児島市宇宿2丁目13番17号 (電話) 099-255-2835
自己評価作成日	令和4年7月2日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和4年7月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム周辺に大型商業施設が多く立ち並び賑やかですが、ひとつ中に入った川沿いにあり、2階からは桜島が見え、静かで落ち着いた環境にあります。
入居者の出来ること、したいこと、楽しみなことを日々の生活に取り入れながら、本人らしく過ごせるように、また、ご家族からの意向を伺いながらケア内容を作成しています。
できる限りホームに閉じこもることがないように、川沿いの散歩を日課に毎月の行事や敷地内の畑の野菜の収穫などを行っています。
コロナ禍のため外出に制限がありますが、コロナ禍だから出来ることを目標に個別ケアや行事の工夫に取り組んでいます。
健康面では訪問看護が入り、いつでも相談・指導が受けられる状況にあり、早めの対応ができることで健やかな生活を送れる体制にあります。
入居者・ご家族と笑顔で安らぎある生活が送れるよう、職員研修・各委員会にも力を入れ、日々のケアに取り組む努力をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、市中心地から数キロ離れた宇宿地区の産業道路から少し入った川沿いの閑静な広い敷地に平成22年に設置されており、周囲には高層マンションや大型商業施設、食品工場、自動車関連企業等が立ち並び、少し離れて小・中学校や交番等もあり利便性は良い。ホームからは桜島が望め、広い園庭には菜園も設けられており、利用者は野菜や草花の成長や収穫を楽しむ等、四季を感じながら平穏に過ごせる環境となっている。町内会の班長を担い、回覧板や小・中学校のリサイクル活動に積極的に取り組み、食材も地域の商店で調達するなど努めているが、コロナ禍に配慮して、外出を伴う交流やホームの行事に家族や地域の人の参加は控えている。
管理者及び職員は、利用者の誇りや尊厳、生活習慣等を大切にしながら思いの把握に努め、利用者主体の生きがいのある暮らしの支援に努めている。利用者の高齢化及び重度化に加え、コロナ禍も長期間続いているため外出や面会等に制限もあるものの、利用者の意向に沿って園庭や川沿いの散歩や近辺への外出、趣味や特技、家事の取り組みを職員全員で検討しながら個別に支援し、その人らしい笑顔や楽しみのある生活となるよう取り組んでいる。日頃から利用者や家族からの意見や要望の把握に努め、職員全体で協議して利用者主体のより良いサービスの実践に努めており、本評価の家族アンケートの結果からも家族との深い信頼関係が窺える。
管理者及び職員は、常にホームの理念を共有し、気軽に意見が言い合える良好な人間関係を築いており、日常的に意見や要望を出し合って運営やサービスの向上を図っている。管理者は、日頃からケアへの助言・指導、スキルアップを図る研修の実施に努め、勤務シフトには休暇の取得や健康状態、個人的な事情等を配慮するなど、働きやすい職場環境の整備に取り組んでいる。法人による福利厚生や資格取得、外部研修受講時の経費の助成制度等も構築されて、職員のモチベーションに繋がっており、定着率も良い。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念の中に地域との交流を揚げている。また、内部研修で理念について再検討し、サービス内容の振り返りを行っている。	開設時に掲げたホームの理念を目につきやすい玄関に掲示し、朝礼時には唱和も行っており共有している。日頃のケアの中や職員会議等で意義の確認や意見交換等を行って利用者主体のケアに取り組んでおり、毎年度ケアの目標も設定し、年度末には反省や見直しを行って、理念の実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会班長をしており町内会に参加している。回覧板は職員に周知している。小中学校のリサイクル活動の協力や地域の小売店など利用している。	コロナ禍により制限はあるが、散歩や通院時には会話を交わし小・中学校のリサイクル活動への参加や町内会の班長として回覧板や地域を意識して活動に日々努めており、食材等も地域の商店の利用を心掛けている。コロナ禍によりホーム内でのボランティアの受け入れは控えているが園庭でのボランティア活動は継続して募集している。ホームの行事への家族や地域の人の参加や買い物、外食、全員でのドライブ等は自粛中である。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	ボランティア活動や介護相談員派遣の受入れを行っているが、コロナ禍で実施できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で職員以外の参加は難しいが、2か月毎に開催し、議事録や勉強会資料は家族、民生委員、長寿あんしん相談センターへ配布している。	通常は、家族、住民代表、民生委員、調剤薬局、長寿あんしん相談センター職員等が出席して隔月毎に開催しているが、コロナ禍に配慮して現在は職員だけで開催し、家族や外部の委員には会議録や研修資料を送付して、意見や要望等を貰うように取り組んでいる。寄せられた意見や要望は職員会議等で検討して運営やケアの向上に繋げており、会議録は常時、玄関に設置して、家族等の閲覧に供している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給者のサービスや受診に関する報告・相談を行っている。担当者との面談や書類に関する手続など協力し家族へ報告している。ケアプランやおむつ領収書など郵送している。	市の担当者とは窓口や電話で、介護保険の代理申請や各種制度の申請・報告、感染症にかかる協議、利用者の半数を占める生活保護受給者の処遇に関する相談、協議等を日常的に行い、助言や指導、提案を貰うなど、協力関係を築いている。ズームによる市主催の会合や研修にも積極的に参加して情報を把握し、運営やサービスの向上に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ委員会を毎月開催し、対象者の状態把握、改善策を検討している。身体拘束に当たっては家族から同意書を頂き、経過表の作成、早期解除への取り組みができるよう体制を整えている。	身体拘束や高齢者虐待の防止については運営規定や重要事項説明書に明記し、計画的（年3回）に研修を実施して認識を共有している。適正化を図る指針を整備し委員会も毎月開催すると共に、日常的にケアの振り返りに務め拘束の無いケアに取り組んでおり、スピーチロックを含む不適切なケアには、その都度、お互いに注意や助言を行って、改善に努めている。やむを得ず拘束を行う場合の家族の同意やケアの状況の記録、早期解除の対応等の体制を書式等も定めて整備している。成年後見制度を適用中の利用者（5人）については後見人との連携を密に図って対処している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に内部研修を行い、またアンケートから職員の理解度を確認している。外部研修にも参加し全職員が周知できるよう取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修の開催、外部研修参加にて理解を深めている。成年後見人の方と相談できる関係性ができている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約などに関することは全て書面・同意書にて説明し、質問や不明な点に対し対応し理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱や、各居室にメモ帳を設置し対応している。入居者・家族の意見、要望は記録に残し職員が共有、反映できるようにしている。コロナ禍で家族との関りが短くなっているのので、話しやすい雰囲気作りに努めている。	利用者や家族とは、日頃から気軽に要望等を言いやすい関係づくりに努めており、利用者の思いは日常の会話や表情、仕草等で汲み取っている。家族や友人との面会はコロナ感染状況を把握しながら玄関先や窓越しでの対面や中止等の対応を取っており、電話、ライン、手紙、意見箱、各居室のメモ帳等でも意向の把握に努めている。また、園便りや担当職員による写真を添付したメッセージカードの送付で利用者の状況を伝え要望等を頂くように取り組んでおり、職員は内容を共有し職員会議等で協議して改善に繋げている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や各委員会で発言できる場を設けている。また、管理者はいつでも対応できる体制（ラインなど）を取っている。	管理者及び職員の間関係は良好で、気軽に意見を言い合える信頼関係が築かれている。日頃の業務の中や申し送り、職員会議時に意見や要望を出し合い、必要に応じて個人面談も行っており、業務の改善やサービスの向上を図っている。ケアに対する助言・指導や研修の実施に努め、勤務シフトには有給休暇の取得や職員の健康状態、個人的事情等も配慮する等、働きやすい職場環境の整備に日々取り組んでいる。資格取得や外部研修受講に要する経費については、法人による助成制度も整備されており、職員のモチベーションアップに繋がっており、職員の定着率も高い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自の業務内容、労働時間、公休希望など全て受け入れ働きやすい環境を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の適性或委員会に合った研修参加や資格取得に力を入れている。リモート研修が増え、参加しやすくなっている。資格取得にも助成金を設け支援している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>コロナ禍でSカフェ（福利厚生）に参加できないが、管理者会議や研修などで、同法人や他事業者との情報交換や意見交換を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談しホームの概要の説明、どのように生活したいか不安や要望を聞き、出来る限り受入れる体制を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込の時点から、ホームの見学・概要を説明し、家族の不安や要望を聞き、出来ること・出来ないことを話し合いながら、安心して入居できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の要望が医療面・経済面などで対応可能であるか見極め、話し合いをし必要性がある場合は支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることを活かし、それぞれ日課を設けお互い助け合いながら生活を送っている。落ち着かない入居者が居たら、他者が声掛けや職員に教えてくれることもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	写真付きメッセージカードや面会時に本人の状態を伝え、今の状態を理解してもらい、そこからさらに昔の状態が分かることもあるため、家族との情報共有に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でなかなか外出は出来ないが、面会はドア越しに行っている。家族の意向がない限り面会は自由に行っている。コロナ感染状況により外出などを行える体制を作っている。	利用者毎の馴染みの情報を把握し、通常は近辺の散歩や買い物、一時帰宅、通院、墓参等を家族の協力を得ながら支援しているが、現在はコロナ禍に配慮して外食、外泊、買い物等は控えている。面会は玄関のドア越しで実施し、コロナの感染状況に配慮しながら、園庭や近くの川岸への散歩や通院、職員の業務時の車への便乗によるドライブ等を個別に支援している。家族とは面会や電話、手紙を取り次ぎ、生活状況の写真を多く取り入れたメッセージカードや園便り「うすきの風」の送付等で関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の性格や関係性を理解し、その人に合った交流の仕方を支援している。何かトラブルがあった時は職員が間に入り早期解決に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も本人や家族の気持ちに寄り添い、相談や支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	様々な分野から本人の意向を聞き、困難な場合は日頃の表情や行動、家族から意向を聞いて実施している。	重度化によりコミュニケーションが難しい利用者もいるが、日頃の会話や仕草、独自のサイン等から思いの汲み取りに努め、家族の意向も確認しながら安全で生きがいのある暮らしになるように取り組んでいる。利用者の意向に沿って音楽やテレビ、ビデオの視聴、ぬり絵、園庭の草花を愛でながらの散歩、調理の手伝い、テーブル拭き等を、体調や残存能力に配慮しながら個別の支援に取り組み、それらの成果には感謝や評価の言葉を添えて自己肯定感を得られるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からこれまでの暮らしについて聞き取りし、ケアマネ・看護師などから情報提供書をお願いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に日々の状態、ケアチェック表に健康状態を記録し状態変換の把握に努めている。ケアプラン変更時はアセスメントから前回との違いを把握しケアプラン作成している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が3か月毎にモニタリングを行っている。担当者会議を開催し本人・家族・職員・看護師などから意見を伺いケアプランを作成している。	利用者や家族の意向を日頃の関わりの中や電話等で把握し、主治医の指示やモニタリング（3か月毎）時の職員の意見を基に、残存機能や習慣、楽しみ事（趣味や家事等）の取り組みにも配慮した介護計画を作成している。利用者の状況変化時は計画を実態に沿って変更し、家族の理解も得て改善に努めており、実施状況は業務日誌や施設介護支援経過、健康チェック表等への詳細な記録で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の言葉や行動を介護記録に残している。また、家族とのやり取りも記録に残し、その後の対応に活かしている。内服変更などは連絡ノートを活用し周知している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の意向は、職員間で相談し実現できるよう、個別ケアを取り入れ、臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問マッサージ・ヘアカットを利用していたがコロナ禍で中止している。歯科往診や訪問看護は継続している。コロナの状況にあったケアを今後も提供していく。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望の病院を利用している。また、状態に応じ専門科への受診や転院を行い、通院は職員が同行し状態報告や指示に従い、健やかに生活できるよう支援している。	本人・家族が希望する医療機関での治療を支援しており、コロナ禍に配慮して通院の殆どを職員が同行している。利用者の状況により訪問診療（月2回）を実施し、歯科も必要に応じて訪問診療で対応しており、他科受診についても家族と協力して適切に医療を受けている。協力医療機関とは連携を密に行い、訪問看護（週1回）も実施して、健康や衛生管理に努めている。健康状態は家族にも密に報告しており、利用者及び家族の信頼と安心に繋がっている。夜間の急変時は救急医療での対応としている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	火曜日の訪問看護の際、状態や受診結果などを報告し、ケアについて指示をもらっている。その後、訪問看護記録が送信されてくるので、各自で保管している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報提供書を作成し日頃の様子や気を付けて欲しいことなど記載している。地域連携室との連絡を密にし本人の状態把握に努め、早期退院の受け入れができるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化と終末期について説明し同意書にサインを頂いている。状態悪化した際は再度説明し医療関係者と連携し家族の不安が軽減できるよう支援している。ケアプラン更新時はリスク説明を行っている。看取りについて定期的に内部研修を行っている。	重度化や看取りの対応指針を整備し、利用開始時に本人や家族に説明して同意書も貰っている。入所後は病状の報告を随時行い、重度化した時点で主治医や家族と話し合いを行って可能な限り家族の想いに沿ったケアをチーム体制で取り組んで看取りを実施している。重度化や看取りの研修を計画的に実施し、スキルアップや不安感の軽減を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを目の届く場所に掲示している。安全対策委員会でヒヤリハット・事故報告書の評価を行い、事故再発防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年3回以上の火災・地震の日中・夜間想定避難訓練を行っている。コロナ禍により関係者以外は参加していない。各居室に防災頭巾を設置し、2階更衣室に非常食など準備し3か月毎に点検している。</p>	<p>夜間発生も想定した火災、地震発生時の災害訓練を年3回実施し、消火器や自動通報装置等の取扱いも研修している。一昨年、住民参加を目標達成計画に掲げているが、コロナ禍に配慮して現在は参加を控えてもらっている。今後は災害訓練実施を事前にお知らせすると共に、災害発生時の協力の要請を検討している。日常的に避難経路や消火器の設置場所等の確認を行い、スプリンクラーや火災通報装置、簡易担架、防災頭巾、卓上コンロ、ラジオ等が整備され、食料や飲料水も備蓄している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳や誇りを傷つけない声掛けや介護を一人ひとりに合った方法で行っている。	人格の尊重やプライバシーの確保、守秘義務については運営規定等に明記され、ケアに関する施設内研修や日頃の業務の中での意見交換等で認識を共有している。理念に沿って、常に利用者の尊厳を大切にケアに努めており、入室時にはノックや声掛けを励行し、排泄や入浴時のケアは羞恥心にも配慮して適切な言葉やトーンで取り組んでいる。利用者が自己決定しやすいような語りかけや選択肢の提示など常に工夫したケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表現が難しい入居者は行動パターンから考えたり、選択肢を提示したりしている。何か希望ややりたいことはないか定期的に声掛けしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの性格や生活パターンから様々な形で過ごせるように支援してる。行動を見守り、危険な時は一緒に行動するなどできるだけ制限しないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	洗面台に本人用のブラシを準備しいつでも整えられるようにしている。衣替えや季節に合った服装を提案している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、食器洗い、下膳などできる人は行い、食後はコーヒータイムをしている。コロナ禍で外食ができないが、行事の時にお弁当など注文している。個別にカップ麺など準備している。	日頃から利用者の好みや栄養バランス、形態、季節感、盛り付け等に配慮し、菜園の野菜も活用しており、食事が楽しみなものになるよう食事係が中心になって取り組んでいる。お節や節句、敬老会などの行事食や誕生日のケーキ、仕出し弁当、テイクアウト（ピザ、フライドチキン等）、手作りや差し入れのおやつ、食後のコーヒータイム、玄関でのお茶等工夫しており、利用者も食材の皮むきやお盆拭き、下膳等を積極的に行っている。コロナ禍に配慮して外食や家族との会食、弁当持参の外出等は控えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせて食事形態を変えたり、お茶以外にコーヒーやジュースなど好きな物を準備している。1日水分量が1000ml以上摂れているか確認し、こまめに声掛けしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けや介助、仕上げ磨きなど口腔ケアを行っている。状態に応じ歯科受診・往診を利用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンにより声掛け・介助を行いトイレ使用を支援している。オムツ使用量が減らせるよう、オムツの種類や案内回数など、その都度検討している。	各利用者の排泄パターンや習慣を把握し、身体の状況等にも配慮した声掛けで、昼間は可能な限りトイレでの排泄を支援しており、手すり等も整備されている。利用者の状態に応じた介護用品やケアの方法を介護計画に反映させて取り組んでおり、オムツの消費量の減少やオムツからリハビリパンツへの改善等がみられている。便秘の予防にヨーグルトやオリゴ糖、水分の摂取、運動に配慮し、主治医の指示も得ながら改善に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10時のお茶時にヨーグルトを提供している。排便が2日ない時はオリゴ糖を入れている。一人ひとりの排便状態に応じ下剤の調整を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週3回の入浴を実施し、入居者の状態に合わせ、時間を空けたり翌日にするなど臨機応変に対応している。基本シャンプーや石鹸は準備するが合わない場合は本人用を準備している。	週3回の入浴を基本としているが、必要に応じて温タオルやシャワー浴で常に清潔を保っている。温度や時間、習慣、好みのシャンプー、同性介助等は意向に沿って柔軟に対応し個浴でゆっくり楽しんでもらえるように努めており、職員とのコミュニケーションの場にもなっている。入浴後は水分補給や保湿剤の塗布を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	終日居室で過ごす人やホールで過ごす人、体力的に臥床が必要な人など、それぞれの生活スタイルに合わせた安静の取り方を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬予防のため二重チェックと朝晩は夜勤者、昼はレク係を担当にしている。服薬後の空き袋は1ヶ月保管しチェックできるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれ出来ることや散歩に行きたいなど、その方の日課や楽しみを尊重し支援している。外気浴や散歩など気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により外出は控えているが、散歩・外気浴は日課となっている。玄関ベンチでコーヒータ임을することもある。昨年12月はコロナ感染が落ち着いていたので、家族と外出など行え、状況に応じ今後も対応していく。	利用者の状態に応じた介助で園庭での日光浴や周辺の散歩を日常的に楽しんでいるが、コロナ禍に配慮して外泊、外食、墓参等は控えている。家族との個別支援による外出や花見等はコロナの感染状況を把握しながら取り組んでいる。コロナ禍で外出の機会が減少している状況が続いているため、玄関でのコーヒータimeや夏祭り、室内での軽い体操やゲーム、音楽・ビデオの視聴、季節に併せた壁画作り等工夫してリフレッシュに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御小遣いとして預かり、お菓子やジュース、日用品など購入している。本人の希望があれば家族と相談のうえ所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望や不安などある時は電話している。コロナ禍で会話もゆっくりできないので、かかってきたら本人に繋げるようにしている。年賀状や行事のメッセージカードなど作成している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的に換気を行い、温度・湿度計を設置し快適な環境が保てるようにしている。ホールや玄関の壁紙の作成、花を飾るなどして季節感を取り入れたり、行事などの写真を飾っている。	利用者が昼間の殆どを過ごすリビングは、明るく余裕あるスペースでテーブルやソファ、テレビ、空気清浄機等が利便性に配慮して置かれ、手すりや反射板テープ等で移動時の安全性を図っている。利用者が作成した季節感のある壁画や絵画、行事の写真、活花等が飾られ、また、菜園には野菜や草花が植えられており、遠くには桜島も望めている。厨房からは調理の音や臭いが伝わるなど和やかな雰囲気である。清掃や空調、整理整頓等を徹底し感染予防の手指消毒剤等も設置されており、不快に感じる臭いや騒音もなく、利用者は四季を感じながら穏やかな日々を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ベンチで外の風に当たりながら外気浴やお茶をしている。また、自席以外でも自由に移動して過ごしたり、状況に応じ席替えをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた家具や食器、仏壇や思い出の品、写真など馴染みの物を使用している。安心して過ごせる環境作りを行っている。</p>	<p>居室はフローリングの床に腰高窓の構造で明るく余裕ある広さが確保され、ベッド、エアコン、防災頭巾が備えられている。利用者は自宅で愛用していた寝具やテレビ、家族写真、遺影、小物等を持ち込み、自身の作品や長寿祝いで頂いた品物等も飾って、家庭同様に本人のペースで落ち着いて生活できる居室となっている。利用者の意向に沿って入口には名前の表示や造花等を取り付けて、戸惑いや不安感の無いように工夫している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下には手すり、階段には反射板テープを貼り安全に備えている。居室が分からない入居者のドアに好きな花や写真を目印にしている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない